



これまでのご意見や調査研究等を踏まえた 論点について

令和 8 年 9 月 8 日

厚生労働省 障害保健福祉部
精神・障害保健課

Ministry of Health, Labour and Welfare of Japan

自立支援医療制度の概要①

根拠法及び概要

根 拠 法 : 障害者総合支援法

概 要 : 障害者(児)が自立した日常生活又は社会生活を営むために必要な心身の障害の状態を軽減するための医療(保険診療に限る。)について、当該医療費の自己負担額を軽減するための公費負担医療制度

※ 患者は1割負担。ただし、患者の負担軽減のため、所得に応じ1月あたりの自己負担上限額を設定。

実 施 主 体 : 【育成医療・更生医療】 市町村 【精神通院医療】 都道府県・指定都市

負 担 割 合 : 【育成医療・更生医療】 国 1/2, 都道府県1/4, 市町村1/4
【精神通院医療】 国1/2, 都道府県・指定都市1/2

自立支援医療の対象者

育 成 医 療 : 児童福祉法第4条第2項に規定する障害児のうち、障害に係る医療を行わないときは将来において身体障害者福祉法別表に掲げる障害と同程度の障害を残すと認められ、手術等により確実な治療の効果が期待できる者(18歳未満)

更 生 医 療 : 身体障害者福祉法第4条に規定する身体障害者で、その障害の状態を軽減する手術等の治療により確実に効果が期待できる者(18歳以上)

精神通院医療 : 精神保健福祉法第5条に規定する精神疾患(てんかんを含む。)を有する者で、通院による精神医療を継続的に要する者

(参考)令和年6度の支給決定件数(※)

【育成医療】10,884件 【更生医療】294,191件 【精神通院医療】2,666,159件

(※) 支給認定の有効期間は1年以内となっており、年度内に複数回支給決定を受ける受給者もいる。

自立支援医療制度の概要②

育成医療・更生医療の対象となる医療の例

【育成医療・更生医療共通】

障害	症状（例）	治療内容（例）
視覚障害	白内障	水晶体摘出術
聴覚又は平衡機能の障害	高度難聴	人工内耳埋込術
音声機能、言語機能又はそしゃく機能の障害	口蓋裂	形成術
肢体不自由	関節拘縮	人工関節置換術
心臓機能障害	心疾患	ペースメーカー埋込手術
腎臓機能障害	腎疾患	腎移植、人工透析
肝臓機能障害	肝疾患	肝移植
免疫機能障害	HIV	抗HIV療法

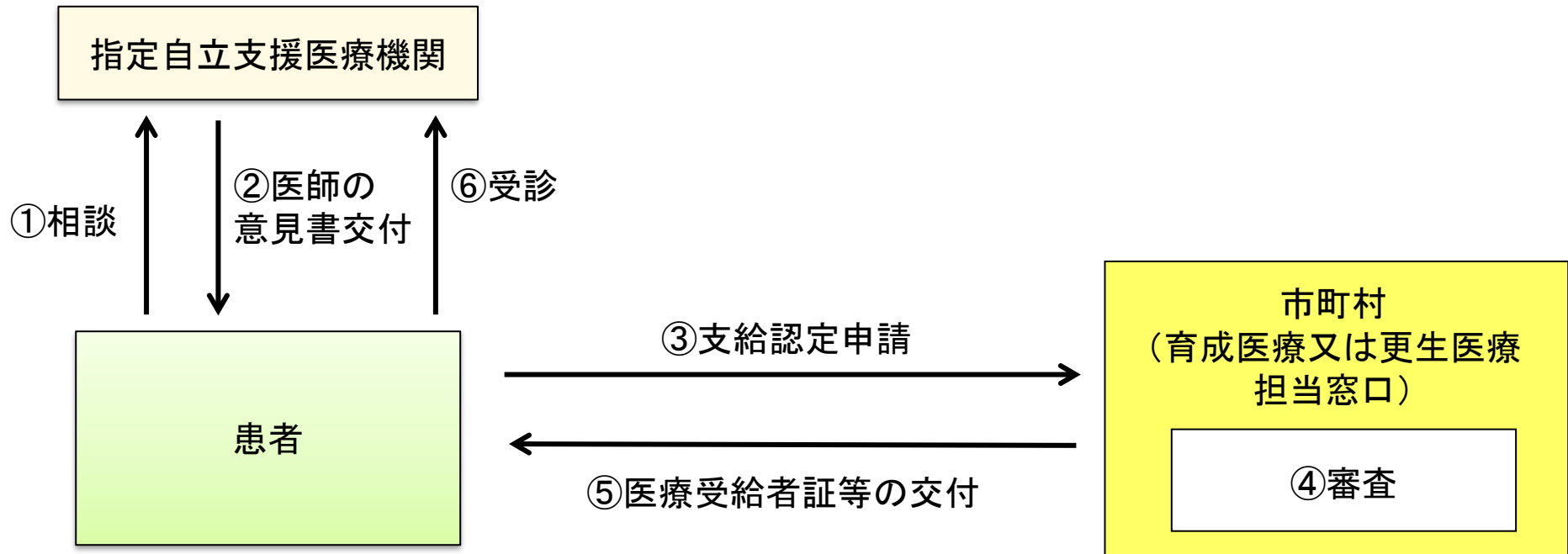
【育成医療のみ】

障害	症状（例）	治療内容（例）
先天性内臓機能障害	鎖肛	人工肛門の造設

自立支援医療制度の概要③

育成医療・更生医療の支給認定の手続

- ①患者は、育成医療又は更生医療の対象の障害を有するかどうか指定自立支援医療機関の医師に相談。
- ②育成医療又は更生医療の障害に該当すると指定自立支援医療機関の医師が診断した場合は、医師の意見書の交付を受ける。
- ③患者は、市町村の窓口にて、自立支援医療の支給認定の申請書と医師の意見書等を提出。
※更生医療については、身体障害者手帳の提出が必要。
- ④市町村は、申請内容を審査する。
- ⑤市町村は、審査の結果、支給認定を行うこととした患者に対し、医療受給者証等を交付。
- ⑥患者は、医療受給者証に記載された指定自立支援医療機関において治療等を受ける。



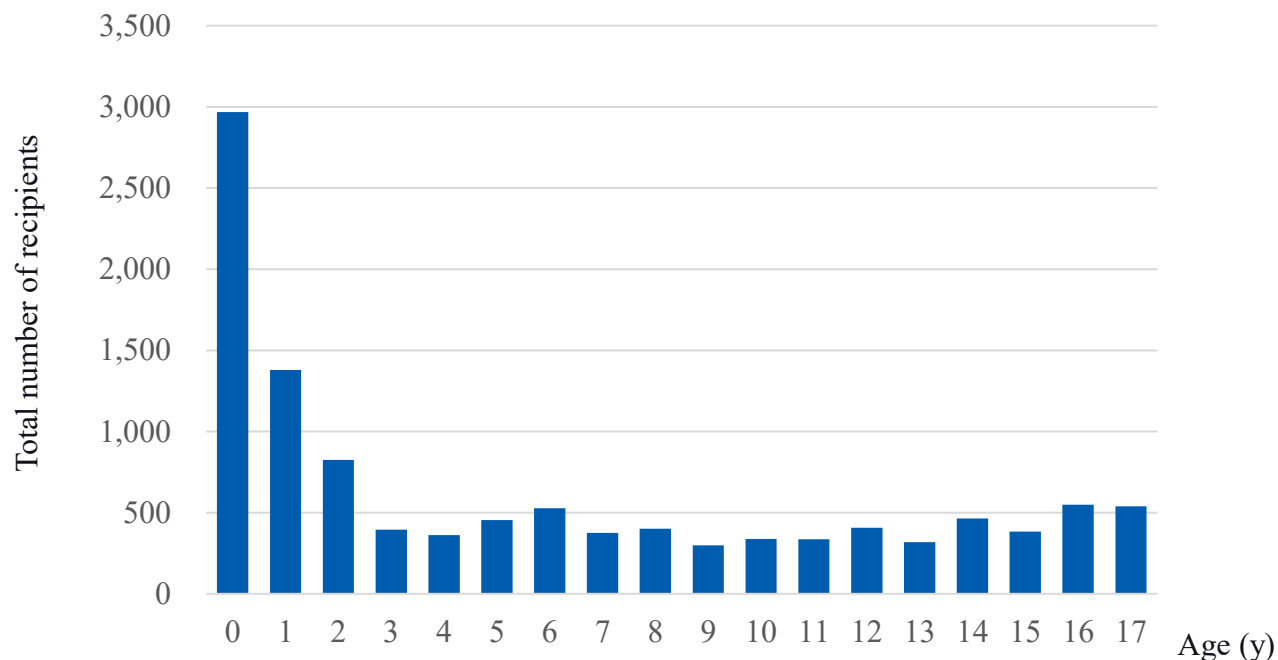
背景情報（JMDC健保データベース）

- 【目的】** JMDCデータを利用し、育成医療の利用が多いと考えられた「口蓋裂」、「脊柱側弯症」、「斜視」、「難聴」が含まれる16歳以上30歳未満の症例のレコードを抽出する。
- 【データ期間】** 2019年1月診療分から2024年3月診療分まで
- 【組入条件】**
- #1. 診療月年齢が、16歳以上30歳未満の年齢条件を満たす。
 - #2. 傷病名（疑い病名は除く）に、該当傷病名を含む。
- 【抽出結果】** 期間中に該当傷病名を含んだ者からKコード（医科手術）およびJコード（歯科手術）を抽出した。
Kコード 4,614人、Jコード 301人が抽出され、KコードとJコードの両方を持つ者は 34人だった。

背景情報（JMDC健保データベース）

カテゴリ名	抽出対象病名（ICD-10）	診療領域
口蓋裂	硬口蓋裂(Q351)、軟口蓋裂(Q353)、軟口蓋裂を伴う硬口蓋裂(Q355)、二分口蓋垂<口蓋垂裂>(Q357)、詳細不明の口蓋裂(Q359)、唇裂, 両側性(Q360)、唇裂, 正中部(Q361)、唇裂, 一側性(Q369)、硬口蓋裂, 両側性唇裂を伴うもの(Q370)、硬口蓋裂, 片側性唇裂を伴うもの(Q371)、軟口蓋裂, 両側性唇裂を伴うもの(Q372)、軟口蓋裂, 片側性唇裂を伴うもの(Q373)、硬及び軟口蓋裂, 両側性唇裂を伴うもの(Q374)、硬及び軟口蓋裂, 片側性唇裂を伴うもの(Q375)、詳細不明の口蓋裂, 両側性唇裂を伴うもの(Q378)、詳細不明の口蓋裂, 片側性唇裂を伴うもの(Q379)	形成外科・ 口腔外科・ 歯科
脊柱側弯症	乳児特発性(脊柱)側弯(症)(M410)、若年性特発性(脊柱)側弯(症)(M411)、その他の特発性(脊柱)側弯(症)(M412)、胸郭原性(脊柱)側弯(症)(M413)、神経筋性(脊柱)側弯(症)(M414)、その他の続発性(脊柱)側弯(症)(M415)、その他の型の(脊柱)側弯(症)(M418)、(脊柱)側弯(症), 詳細不明(M419)、脊柱の先天(性)変形(Q675)	整形外科
斜視	その他の麻痺性斜視(H498)、麻痺性斜視, 詳細不明(H499)、共同性内斜視(H500)、共同性外斜視(H501)、上下斜視(H502)、間欠<歇>性斜視(H503)、その他及び詳細不明の斜視(H504)、斜位(H505)、機械的斜視(H506)、その他の明示された斜視(H508)、斜視, 詳細不明(H509)	眼科
難聴	両側性伝音難聴(H900)、一側性伝音難聴, 反対側の聴力障害を伴わないもの(H901)、伝音難聴, 詳細不明(H902)、両側性感音難聴(H903)、一側性感音難聴, 反対側の聴力障害を伴わないもの(H904)、感音難聴, 詳細不明(H905)、両側性混合難聴(H906)、片側性混合難聴, 反対側の聴力障害を伴わないもの(H907)、混合難聴, 詳細不明(H908)、聴器毒性難聴(H910)、老人性難聴(H911)、突発性難聴(特発性)(H912)、ろうあ<聾啞>, 他に分類されないもの(H913)、難聴, 詳細不明(H919)	耳鼻咽喉科

データ分析（育成医療の年齢別分布）



データ期間（3年間）における育成医療による公費負担が発生したレセプトに記載されていた傷病名を持つ年齢階層ごとの延べ人数

16歳以降に実施された手術 （形成外科・口腔外科・歯科領域）

育成医療利用歴なし	手術時年齢（歳）													
手術	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29
[K407] 顎・口蓋裂形成手術	7	3	3	2	2	1	0	0	0	0	1	0	1	1
[K426] 口唇裂形成手術（片側）/[K426-2] 口唇裂形成手術（両側）	14	15	19	24	9	7	10	6	4	4	2	2	3	5
[K443] 上顎骨形成術/[K444] 下顎骨形成術	0	0	8	7	7	7	2	0	1	0	0	0	0	1
[J022] 顎・口蓋裂形成手術	2	2	1	0	2	0	0	2	0	0	1	1	1	1
[J024] 口唇裂形成手術（片側）/[J024-2] 口唇裂形成手術（両側）	12	11	11	5	6	1	3	0	1	1	1	0	0	1
[J069] 上顎骨形成術/[J075] 下顎骨形成術	1	3	1	5	2	3	2	0	1	2	0	0	0	1
（合計）	36	34	43	43	28	19	17	8	7	7	5	3	5	10

16歳以降に実施された手術 （形成外科・口腔外科・歯科領域）

手術	手術時年齢（歳）													
	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29
[K407] 顎・口蓋裂形成手術	1	3	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
[K426] 口唇裂形成手術（片側）/[K426-2] 口唇裂形成手術（両側）	12	18	13	6	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0
[K443] 上顎骨形成術/[K444] 下顎骨形成術	2	4	3	1	0	2	1	0	0	0	0	0	0	0
[J022] 顎・口蓋裂形成手術	6	2	3	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
[J024] 口唇裂形成手術（片側）/[J024-2] 口唇裂形成手術（両側）	5	13	4	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0
[J069] 上顎骨形成術/[J075] 下顎骨形成術	3	4	4	3	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0
（合計）	29	44	28	13	3	5	2	0	0	0	0	0	0	0

16歳以降に実施された手術 （整形外科領域）

育成医療利用歴なし		手術時年齢													
手術		16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29
[K038] 腱延長術		5	3	3	1	2	3	0	0	0	0	0	1	0	0
[K142] 脊椎固定術、椎弓 切除術、椎弓形成術（椎 弓形成）		102	82	74	63	34	19	23	14	9	8	8	7	9	8
[K142-2] 脊椎側彎症手術															

育成医療利用歴あり		手術時年齢													
手術		16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29
[K038] 腱延長術		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
[K142] 脊椎固定術、椎弓 切除術、椎弓形成術（椎 弓形成）		46	37	4	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
[K142-2] 脊椎側彎症手術															

16歳以降に実施された手術 （眼科領域）

育成医療利用歴なし	手術時年齢													
手術	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29
[K219]眼瞼下垂症手術	3	8	8	1	0	0	4	1	1	1	0	1	0	1
[K242]斜視手術	119	99	108	111	93	75	78	47	60	52	61	47	51	47
[K244]眼筋移動術	1	1	1	0	0	0	0	1	0	1	1	1	0	0
[K268]緑内障手術	0	1	1	1	0	2	1	0	0	0	0	0	0	0
[K275]網膜復位術	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
[K276]網膜光凝固術	10	7	2	4	4	5	2	5	3	3	3	2	4	3
[K280]硝子体茎頭微鏡下 離断術	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	1	1	1
[K281]増殖性硝子体網膜 症手術	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
[K282]水晶体再建術	2	2	1	1	0	2	0	1	1	1	2	1	2	3

16歳以降に実施された手術 （眼科領域）

手術	手術時年齢													
	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29
[K219]眼瞼下垂症手術	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
[K242]斜視手術	11	19	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
[K244]眼筋移動術	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
[K268]緑内障手術	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
[K275]網膜復位術	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
[K276]網膜光凝固術	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
[K280]硝子体茎頭微鏡下 離断術	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
[K281]増殖性硝子体網膜 症手術	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
[K282]水晶体再建術	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

16歳以降に実施された手術 （耳鼻咽喉科領域）

育成医療利用歴なし 手術	手術時年齢													
	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29
[K320] アブミ骨摘出術・ アブミ骨可動化手術 /[K320-2] 人工中耳植込術	2	0	2	0	2	1	2	1	0	0	2	1	2	1
[K319] 鼓室形成手術 /[K319-2] 経外耳道的内視 鏡下鼓室形成手術	18	9	10	16	12	2	6	8	11	14	14	4	6	8
[K327] 内耳窓閉鎖術	1	1	0	0	0	0	1	0	1	0	0	3	0	0
[K328] 人工内耳植込術 /[K328-2] 植込型骨導補聴 器移植術	4	5	0	6	2	4	11	7	4	5	3	1	2	2

16歳以降に実施された手術 （耳鼻咽喉科領域）

手術	手術時年齢													
	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29
育成医療利用歴あり														
[K320] アブミ骨摘出術・ アブミ骨可動化手術 /[K320-2] 人工中耳植込術	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
[K319] 鼓室形成手術 /[K319-2] 経外耳道的内視 鏡下鼓室形成手術	0	2	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
[K327] 内耳窓閉鎖術	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
[K328] 人工内耳植込術 /[K328-2] 植込型骨導補聴 器移植術	3	3	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

これまでのご意見や調査研究等を踏まえた論点①

現状・課題①

- 口唇・口蓋裂友の会からの説明
 - 口唇・口蓋裂では身体障害者手帳が取得できないケースがある。
 - 口唇・口蓋裂は18歳を過ぎても治療が必要となることがある。
- 幼少期から成人期にかけて継続的な治療が必要な疾患に関する形成外科の立場からの説明
 - 口唇・口蓋裂では骨延長術が必要になると長期の入院が必要となるため、大学生の夏休みなどの入院となることが多い（18歳や19歳）。その間、手術前後の歯科矯正が必要となる。
 - 症候性の頭蓋縫合早期癒合症では、中顔面の骨延長術が終了しても最終的な上下顎の骨切り術が必要なが多い。最終的な骨切り術は大学生の夏休みなどの入院となることが多い（18歳や19歳）。手術前後の歯科矯正が必要となる。
- 幼少期から成人期にかけて継続的な治療が必要な疾患に関する歯科矯正の立場からの説明
 - 個々の患児における成長発育の状態により、二期治療の終了が18歳を超える場合がある。
- 認定事務を実施する市町村の立場からの説明
 - 幼少期であれば手帳取得ができる方も、治療の段階によって食事等ができる場合は18歳になっての手帳の取得が認められない可能性はある。
- 幼少期から成人期にかけて継続的な治療が必要な障害がある当事者の立場からの説明
 - 小児から成人に移行する過程では、トランジション（移行期）の問題、子どもの発達段階における課題、小児科から内科へ医療的移行支援の課題、など様々な課題がある。

これまでのご意見や調査研究等を踏まえた論点②

現状・課題②

□ 育成医療対象疾患の実態把握に関する研究

- レセプトデータ分析により、口唇・口蓋裂、脊柱側湾症、斜視等の疾病において18歳以降でも手術を実施していることが確認された。
- 育成医療の利用歴のある者について、18歳以降も手術実績があり、形成外科・口腔外科・歯科領域では、概ね22歳頃まで、整形外科領域、眼科領域、耳鼻咽喉科領域では概ね20歳頃までの手術実績があることが確認された。
- 育成医療の利用歴がない者については、手術が実施された年齢に共通される傾向は見られない。
- 18歳以降に手術を実施した理由については、調査において確認できていない。

論点

- 育成医療の利用歴がある者について、長期入院の必要性や身体の成長発育の状態等の理由から、18歳以降も治療を継続する場合に、その治療費の患者負担の在り方についてどのように考えるか。
- レセプトデータ分析も参照にしながら、育成医療の利用歴がある者について、18歳以降の治療の継続性があると認められる場合（対象疾病や治療方法、手術を実施する年齢等）をどのように考えるか。